

白石

札幌市立白石小学校

学校だより 臨時号

令和7年9月19日



札幌市立白石小学校ホームページアドレス <https://www.shiroishi-e.sapporo-c.ed.jp/>

令和7年度全国学力・学習状況調査

本校の結果と分析結果のお知らせ

本年4月に6年生を対象に実施された【全国学力・学習状況調査】について本校の調査結果をお知らせいたします。この調査は全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています

札幌市では、「学ぶ意欲」「基礎的・基本的な知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」等をバランスよく育む教育の推進を目指しています。本校でも、これらの視点を大切にした教育活動を進めており、今回の結果についても、全国の結果と比較・分析をし、本校の教育活動の充実に生かしていきます。

この調査結果は、児童の学力の特定の部分であることを踏まえご覧いただくとともに、全校的な児童の傾向として捉え、ご家庭での取組の参考にしてください。

全国学力・学習状況調査の内容（6年生対象）

① 教科に関する調査

国語・算数・理科の3教科〔下の（ア）（イ）をそれぞれ一体的に出題〕

（ア）身に付けておかなければ、のちの学年等の学習内容等に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

（イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

【国語】

本校の概要	今回調査における課題	改善の方向
<p>【領域 及び 内容】</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」</p> <p>(2)「情報の扱い方に関する事項」</p> <p>(3)「我が国の言語文化に関する項目」</p> <p>の全ての内容で、正答率が全国平均を下回っています。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>A「話すこと・聞くこと」</p> <p>B「書くこと」</p> <p>C「読むこと」</p> <p>の全ての内容で、正答率が全国平均を下回っています。</p>	<p>A) 他者とのコミュニケーションの中で、相手の意図や必要な情報を的確に捉え、それらを元に伝え合う内容を検討して話すこと</p> <p>B) 伝えたい内容や目的、意図を吟味し、構成や文量を意識、調整しながら書くこと</p> <p>C) 書かれている叙述の内容、その関係性や文章全体の構成を捉え、図表などを結び付けながら、必要な情報を見付け出すこと</p>	<p>◎「知識及び技能」の領域について、</p> <p>☆日常的に「読書」、本にふれる機会を学校生活の中で設定する。</p> <p>☆日頃より他教科においても、各種データと文章を照らし合わせながら読み解いたり、まとめて表現したりする学習スタイルを確立していく。</p> <p>☆学習に限らず実際の生きた体験を教育活動の中に取り入れることで、児童の学習基盤づくりを行う。</p> <p>◎「思考力、判断力、表現力等」の領域について、</p> <p>☆「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に共通して、言語表現された文章、内容を構造的に理解する“分析的な読み”に重きをおいた学習を展開する。</p> <p>☆豊かな言語環境の構築とともに、読解力と主に文章による表現力を一体的に育成する。</p>

【算数】

本校の概要	今回調査における課題	改善の方向
<p>【領域】</p> <p>A「数と計算」 B「図形」 C「測定」 C「変化と関係」 D「データの活用」</p> <p>の全ての領域で、正答率が全国平均を下回っています。</p>	<p>A) 数概念形成、特に分数の数理解、それに伴う、計算処理を適切に行うこと</p> <p>B) 図形の構成要素に着目し、各要素間の関係性について言葉や数を用いて記述すること</p> <p>C) 二変数の関係性を捉え、それを利用して数量の大きさを求めるために式や言葉を用いて表現すること</p> <p>D) 図表やグラフからデータ間の関係性を理解したり、条件に合った項目やデータを選んだりすること</p>	<p>◎算数科の学習活動全般において、「言葉」「図」「式」で表現し、それらを用いて思考していく学習スタイルの定着を図る。</p> <p>◎学習に限らず実際の生きた体験を教育活動の中に取り入れることで、児童の学習基盤づくりを行う。</p> <p>☆低学年からの数概念形成の積み上げを確実にを行い、特に直感的な理解が難しい分数の数理解のための時数配分を含めた単元構成、授業展開の工夫を図る。</p> <p>☆図形の構成要素のどこに着目するとよいのかを考え、それに基づいて図形の分解、結合等を行い、そのことを表現できるような活動を充実させる。</p> <p>☆2変数の相互関係を捉え、式と関連付けながら、イメージ化、表現する活動を充実させる。</p>

【理科】

本校の概要	今回調査における課題	改善の方向
<p>【区分 及び 領域】</p> <p>〔A区分〕 「エネルギー」を柱とする領域 「粒子」を柱とする領域 ともに、正答率が全国平均を下回っています。</p> <p>〔B区分〕 「生命」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域 ともに、正答率が全国平均を下回っています。</p>	<p>★個々の科学的な現象について、実験や観察を通じて体験的に知識を身に付けること</p> <p>★また、身に付けた科学的な概念や法則を日常の自然現象の理解に結び付けること</p>	<p>◎学習に限らず実際のな生きた体験を教育活動の中に取り入れることで、児童の学習基盤づくりを行う。</p> <p>☆理科の学習全体を通じて、[児童の疑問（問題意識）→予想→結果→結論（概念形成・法則化)]の流れを意識した学習の展開を行う。</p> <p>☆実験や観察において、対象同士の比較や条件制御といった手法を活用することで論理的な思考を育てるとともに、課題を解決するための方法を児童自らが考えられる学習を展開する。</p> <p>☆学習したことが日常（の自然現象）と結び付け、その理解へのつながるような単元を構成する。</p>

【児童質問紙調査】

全国の回答傾向と白石小学校の傾向を比べ、本校児童の特徴をお知らせします。

《人間尊重の教育に係る質問》 ※肯定的な回答をした児童の割合

〈「相互承認の感度」の視点〉		
自分にはよいところがあると思いますか。	本校：75%	全国：86.9%
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	本校：88.2%	全国：92.2%
〈「自分が大切にされていると実感できる学校」の視点〉		
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	本校：58.9%	全国：70.6%
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれぐらいありますか。	本校：85.3%	全国：93%
学校に行くのは楽しいと思いますか。	本校：73.5%	全国：86.5%
△各質問項目への肯定的な回答率がやや低くなっています。自己肯定感の誤認識（自己肯定感＝自己万能感）により、学力を含めた実際の児童の成長、育ちとの溝、それを受け止めきれないことによる回答結果と読み取れます。		

《課題探究的な学習に係る質問》 ※肯定的な回答をした児童の割合

〈「主体性」の視点〉		
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自ら取り組んでいましたか。	本校：70.6%	全国：80.3%
〈「個別探究」の視点〉		
5年生までに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習の時間となっていましたか。	本校：79.5%	全国：83.4%
〈「協働探究」の視点〉		
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	本校：88.3%	全国：91.9%
〈「リフレクション（振り返り）」の視点〉		
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	本校：75%	全国：79.4%
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。	本校：70.6%	全国：82.5%
〈「教師の関わり」の視点〉		
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	本校：85.3%	全国：91.9%
△本校児童の学習への取組態度として、やや消極的な児童がいることが読み取れます。学習を進めていく上で、個と集団のバランスをうまく取りながら、児童が自ら考え、判断しながら、より主体的な意識を形成できるような指導支援を工夫していきます。		

《さっぽろっ子自治的な活動に係る質問》 ※肯定的な回答をした児童の割合

〈「自治的な活動」の視点〉

あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	本校：76.5%	全国：83.3%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。	本校：79.4%	全国：80.8%
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	本校：79.4%	全国：81.3%

△児童の意識が、集団で合意形成を図りながら、物事を決定していこうとする意識ができてきていることが読み取れます。児童会活動や学級活動を通じて、自治的なマインドを高め、『社会人』としての成長を支援していきます。

《ICTの活用に係る質問》 ※週3回以上使用していると回答をした児童の割合

〈「活用の頻度」の視点〉

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度しようしましたか。	本校：75%	全国：71.7%
---	--------	----------

☆児童の学習、生活、様々な学校での活動場面で積極的にICT機器が活用されていることが読み取れます。今後も、考えを表したり、交流したりなど、協働的で深い学びに向け、更に活用の工夫を工夫すると同時に、ネットモラルやデジタル・リテラシーへの理解増進に努め、デジタル、ICTに振り回されない意識の育成を図っていきます。